

KM
県政だより
P R E S S

熊本県議会議員 Vol.51 平成28年1月号

みぞぐち幸治

みせます つたえます つなげます

こ う じ

みぞぐち幸治事務所
〒868 0006
熊本県人吉市駒井田町1952-34
TEL 0966-22-5800
FAX 0966-22-5802
office@k-mizoguchi.com
http://www.k-mizoguchi.com



10月19日／遙拝神社例大祭

皆様のおかげで今年も無事に新しい年を迎えることができました。ご承知の通り球磨人吉は昨年四月に日本遺産に認定されました。そのテーマは「相良七〇〇年が生んだ保守と進取の文化」日本でもっとも豊かな隠れ里 人吉球磨」全国十八件の一つ、日本遺産の第一号です。これは人吉球磨が「世界に誇る文化財の日本ブランド」として認められた証である

新年おめでとうございます。
地域ブランドの誇りを胸に、未来へ!
文化と経済を結び、幸せ実感の社会を目指してく

り、地域の誇りであります。国は二〇一〇年の東京オリンピック・パラリンピックまでに日本遺産を百件程度に増やす予定であり、まさに国を挙げて文化財を積極的に活用して国内外に情報発信し地域の活性化を図る事業であります。

今年は本格的に認定された歴史文化ストーリーと、それを構成する四十

一の文化財を中心に、ありとあらゆるものを作り組みを進める年にしたいものです。それをストーリーの中に組み込む知恵を出し、地域の活性化につなげていく

例え、「日本でもっとも豊かな隠れ里人吉球磨」これを球磨人吉が行うイベント、作成するパンフレットや資料、球磨人吉の農産物や商品のパッケージに積極的に活用することで、日本遺産になつた人吉球磨を国内外にPRすることなどはいかがでしょうか。

「日本でもっとも豊かな隠れ里」との表現は司馬遼太郎氏が球磨人吉を訪れた時のこと、「街道をゆく3」という本の中で紹介した言葉であり、国が認

めた球磨人吉を表現する時の言葉です。とにかく、球磨人吉にとって日本遺産認定はチャンスです。

日本遺産を構成する文化財以外にも素晴らしい資源が存在します。多くの方々に訪れて頂くためにはインフラ整備も必要です。人吉球磨で生産される農林水産物、新しい商品などをいかに力を入れ球磨人吉を、そして熊本県を元気にする活動に力を注ぎます。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



議長退任慰労会にて(左:小泉進次郎氏、右:松本洋平氏)

P 活動 photo ライブリー



10月18日／大畠地区市民体育祭



11月7日／球磨エフェスタ



11月7日／ひとよし産業祭



11月8日／南稜祭



12月12日／人吉球磨郡市保育園 合同勉強会

溝口幸治新春の集い

皆様方の多数のご参加をお待ちしております!

とき 平成28年2月5日(金曜日)

午後6:00開演(受付5:00)

ところ 清流山水花 あゆの里

人吉市九日町30 TEL 0966-22-2171

会費 10,000円

この催物は、政治資金規正法第八条の二に規定する政治資金パーティーです。

※当日は立食形式のパーティーとなります。

講師 熊本県知事
蒲島郁夫氏



主催／溝口幸治 新春の集い実行委員会

お問い合わせ先: 事務局／人吉市駒井田町1952-34 TEL 0966-22-5800

この会報のお問合せは

溝口幸治事務所

人吉市駒井田町1952-34

tel 0966-22-5800

fax 0966-22-5802

http://www.k-mizoguchi.com

E-mail: office@k-mizoguchi.com



みぞぐち幸治後援会 所在地
ACCES MAP



熊本県まち・ひと・しごと創生総合戦略【概要版】

基本目標

1. 熊本の発展を支える産業と、魅力ある雇用を創出する

○社会減を
1,430人
に半減

2. 熊本への人の流れを創るとともに、人材の流出を抑制する

○5年間の
出生数を
77,350人

3. 県民の結婚・出産・子育ての希望を実現する

○県民総
幸福量を
70ポイント

4. 県民が誇りを持ち安心して暮らし続ける地域を創る

取組みの方向性と実現に向けた施策

活力と雇用を創る

(ア) 地域の活力をけん引する農林水産業の展開
 ◆熊本型農業者育成の仕組みの構築(相談から就農、定着までの支援)
 ◆企業の農業参入、農地集積、6次産業化の推進
 ◆森林経営集約化、新たな木材流通体制整備など「山のしごとシステムづくり」
 ◆水産資源の回復や養殖環境の保全・改善の取組支援
 (イ) 新たなビジネスの創出
 ◆「自然共生型産業(アグリ、バイオ、ヘルスケア等)」などの飛躍
 ◆大学との連携による新産業創出に向けた人材育成や地域課題の解決
 (ウ) 地域に根ざす企業の振興
 ◆ものづくり産業やサービス産業等の生産性向上の取組支援
 ◆地場企業の「成長発展」と「持続的発展」の支援
 ◆リーディング企業創出やプロフェッショナル人材戦略拠点の活用
 (エ) 戦略的企業誘致の推進
 ◆研究開発部門誘致及び企業の本社機能の移転促進
 ◆半導体・自動車関連産業の更なる集積
 (オ) 地域資源を活用した交流拡大
 ◆豊かな自然や食などの地域の環境・資源を活かした交流人口の拡大
 ◆新たなアイデアを生む外部人材の活用やICTを活用した情報発信
 (カ) 産業ニーズに応じた人材の育成・確保
 ◆若手経営者などを対象とした新たな人材育成や職業訓練の充実
 ◆熊本ゆかりの人材のネットワーク化の取組みやYUJITANの促進
 ◆学校における職業講話やインターンシップの実施による職業教育の充実
 ◆生徒や保護者、教職員の地元企業の認知度向上による県内就職促進
 ◆医師・看護師・福祉職員・建設技術者等の人材育成・確保

世界の中で輝く

(ア) 世界で躍動する海外戦略の展開
 ◆空港及び空港アクセスの更なる機能向上など「大空港構想」の推進
 ◆ハーベスト等の利便性向上及びクルーズ船受入れ推進
 ◆農林水産物・加工品などの海外への販路拡大
 ◆留学生の相談・就職支援
 (イ) 観光を基軸にした仕事づくり
 ◆ウェルカムマインド・語学力など「おもてなし力」の向上
 ◆九州を周遊する広域観光ルートの構築
 ◆ICTを活用した戦略的マーケティングなど客単価向上等の取組の推進
 (オ) 災害に負けないまちづくり
 ◆「九州を支える広域防災拠点構想」に基づく拠点施設機能の強化
 ◆消防団・自主防災組織等の充実強化
 ◆道路・河川等の整備や戦略的維持管理
 ◆土砂災害警戒区域外への移転支援

※「基本目標」の実現に向けて、取組みの方向性に沿って施策を展開します。
 ※具体的な施策のまとめごとに「重要業績評価指標(KPI)」を設定(80項目)し、進行管理を行います。

安心・希望を実現する

(ア) 子供を安心して産み育てられる社会づくり
 ◆結婚活動・出産・子育てのステージに応じた支援
 ◆妊娠・出産に関する知識の普及啓発によるライフデザイン化
 ◆多子世帯保育料軽減、保育所等利用待機児童ゼロに向けた取組促進
 (イ) 安心して暮らせる社会づくり
 ◆「くまもと地域暮らし安心システム(仮称)」の構築(医療・介護・予防・住まい・生活支援の一体的な提供)
 ◆生涯現役で活躍する健康長寿の取組支援
 (ウ) 女性の社会参画の加速化、若者・高齢者・障がい者の活躍促進
 ◆ワーカーライフバランスの実現など女性が輝き活躍できる環境の整備
 ◆若者・高齢者・障がい者の個性に応じた就労の支援
 (エ) 誰もが働きやすい労働環境の整備
 ◆プライバシーの認定・表彰
 ◆企業の健康経営の推進
 ◆企業と従業員の相互理解による働き方改革の推進
 (オ) 次代を担う人材・グローバルな人材の育成
 ◆児童生徒の学力向上や学生等の海外留学・進学支援・SGHの推進
 ◆ICT活用による教育の推進
 ◆東京オリンピック・パラリンピックに向けた競技者の育成
 (カ) 産業ニーズに応じた人材の育成・確保

未来の礎を築く

(ア) 次代につなぐ地域づくり
 ◆親元就農等による三世代同居・近居の推進など家族や地域の絆の再生
 ◆拠点集落への機能集約など小さな拠点づくりの推進
 ◆阿蘇の草原再生や地下水と土を育む取組みの推進
 ◆市町村や関係団体と連携した「くまもと移住定住促進戦略」の推進

(イ) 歴史・文化・芸術・スポーツ等による地域づくり

◆世界遺産・日本遺産の登録・認定の推進
 ◆歴史・文化資源を活用した地域活性化支援
 ◆「総合型地域スポーツクラブ」の育成など生涯スポーツの振興

(ウ) 人口のダム効果を活かした広域連携の推進

◆複数市町村等が連携・協働する広域的な取組みの支援
 ◆連携中枢都市圏等の広域連携の支援

(エ) 拠点性を高める基盤づくり

◆幹線道路ネットワークや地域の実情に応じた公共交通網の整備
 ◆コンパクト・プラス・ネットワーク形成に資する道路網の整備
 ◆熊本駅周辺地域の在来線高架化の推進

(オ) 災害に負けないまちづくり

◆「九州を支える広域防災拠点構想」に基づく拠点施設機能の強化
 ◆消防団・自主防災組織等の充実強化
 ◆道路・河川等の整備や戦略的維持管理
 ◆土砂災害警戒区域外への移転支援

熊本県人口 ビジョン

人口の現状

2014年の人口
179.4万人

人吉・球磨地域
8.9万人

①自然増減 ▲4,903人

- ・合計特殊出生率／1.64(全国1.42) ⇒ 2005年(1.46)から上昇も人口置換水準に及ばず
- ・初婚年齢／男30.3歳、女28.8歳 ⇒ 40年前に比べ約4歳上昇
- ・母親の第1子出生時年齢／29.5歳 ⇒ 20年前に比べ約2歳上昇

②社会増減 ▲2,861人

- ・転出超過先／東京圏1,697人、福岡県1,380人、中部434人等 ⇒ 転出超過の半数が東京圏
- ・転出超過の主な年齢層／15歳から24歳3,744人 ⇒ 転出超過は若年層に集中
- ・県内高校卒業者の県外就職率／39.1% ⇒ 全国第6位の県外流出
- ・県内大学卒業者の県外就職率(2013年)／55.6% ⇒ 大学生の半数以上が県外へ

人口の将来展望

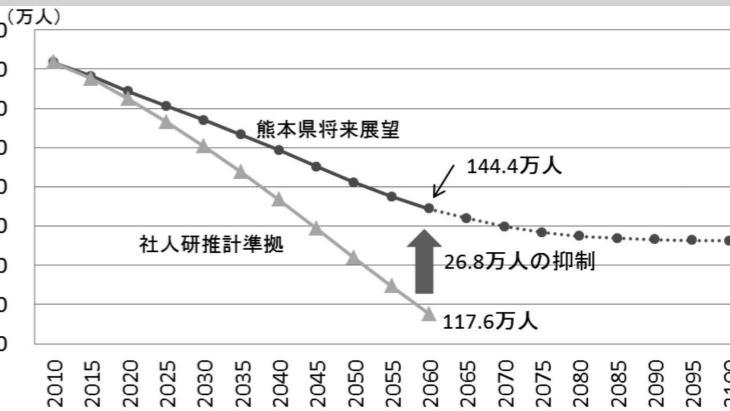
2060年の人口
144.4万人

人吉・球磨地域
6.1万人

※市町村人口ビジョン等からの推計

**このまま何も対策を講じなければ、
2060年の人口は117.6万人まで減少**

【熊本県総人口長期推計と将来展望】



【人口減少の影響】

- ・生産年齢人口の減少に伴う労働力不足、地域経済規模の縮小
- ・担い手の減少に伴うものづくり分野の技術・技能の継承困難
- ・老人人口増加に伴う医療福祉分野の労働力不足、社会保障費の一人あたり負担増
- ・地域活動の担い手の減少に伴う地域コミュニティ維持・存続困難、地域文化継承の困難

・「幸せ実感くまもと「まち・ひと・しごと」づくり推進会議」において、課題等の認識共有を図り、将来への取組みを協働して推進する。P D C Aマネジメントサイクルによる成果重視の運営や、外部有識者等の参画による効果検証を行う。また、分かりやすい指標(KPI)により進捗状況を公表する。

・総合戦略に掲げた施策と各市町村の個性を生かした取組みが相乗効果を生み出せるよう、県と市町村が方向性を共有し、より一層連携しながら、地方創生の実現に取り組む。